

## 生涯学習の意識に関する一考察

— 「家族の収入」と「ライフコース」を中心に —

○寺嶋文代（東京都立北多摩高等学校）

浅田隆夫（目白学園）

キーワード： 女性 生涯学習 家族の収入 ライフコース

### 1 調査の目的

現在、女性問題をめぐる様々なことが論議されています。1975年の国際婦人年を契機に、雇用機会均等法の成立・家庭科の男女共修などがあり制度的にも整備されてきました。マスコミでも、女の時代・女性の自立と言われますが、女性の意識や現状についてどのように変化があったのでしょうか。確かに若い人よりは中高年の女性の子育てが終わった人たちの意識の変化が大きく変わったようである。高齢化のことを考えて、これからの人生を楽しく過ごしたい、いま健康なときにやれることをやっておきたいという気持ちが強く現れている。平成4年の東京の女性有業者は5割を上回った。有業率を年齢階級別にみると、20歳台で最も高く、30歳台で急激に落ち込んだ後、40歳台～50歳台前半で再度上昇して2度目のピークを築き、50歳台後半から年齢とともに低下するという、いわゆる「M字型曲線」を描いている。女性の有職者の働いている理由としては、「生計を維持するため」「家計の足しにするため」など経済的要因を挙げる者が多い。また、女性が再び働きにでる場合にはどのようなことを重視して仕事を選ぶことが大切だと思うか聞いたところ、「家庭生活との両立がしやすいこと」が最も多く、「収入や労働条件がよいこと」「能力や資格が発揮できること」などの順となっている。このように、女性が結婚・出産後も仕事を継続する必要性は人それぞれの目的がある。仕事をもつ女性の生き方として、社会的な評価を得るというより、経済的な自立・自己実現・社会参加に意義を求める等、積極的に参加している。女性の経済力や精神的なゆとりによって、生涯学習の意識が高まり活動も認められるようになってきた。

本調査はM短大卒業生について、女性のライフコースによって家族の収入はどのようにになっているのか。生涯学習に対する意識が家族の収入とどのように関わっているか。経済を引き起こす環境と女性の生き方を試みることを目的とする。

### 2 結果及び考察

#### (A) 卒業年度と家族の収入 (表1)

「家族の収入」の「全体」の平均で最も割合の多い所得層は、「500～700万円」台と「700～1000万円」台でともに2割、これに「300～500万円」台と「1000～1500万円」台（1割）が続き、1500万円以上の高所得層も僅か（6%）だがみられる。

表1 卒業年度と家族の収入クロス

	NA	1	2	3	4	5	6	7
		200万未満	200万～300万	300万～500万	500万～700万	700万～1000万	1000万～1500万	1500万以上
NA	3 50.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 16.67	0 0.00	1 16.67	1 16.67
I期 65-70年	10 16.67	0 0.00	0 0.00	5 8.33	6 10.00	18 28.67	15 25.00	8 13.33
II期 71-75年	5 11.63	1 2.33	0 0.00	4 9.30	10 23.26	17 39.53	5 11.63	1 2.33
III期 76-80年	16 21.92	4 5.48	1 1.37	10 13.70	20 27.40	13 17.81	7 9.59	2 2.74
IV期 81-85年	38 30.65	0 0.00	2 1.61	13 10.48	29 23.39	25 20.16	13 10.48	4 3.23
V期 86-90年	38 36.19	0 0.00	5 4.76	10 9.52	21 20.00	14 13.33	9 8.57	8 7.62
VI期 91-92年	23 76.67	0 0.00	1 3.33	0 0.00	0 0.00	1 3.33	4 13.33	1 3.33
全体	133 30.16	5 1.13	9 2.04	42 9.52	87 19.73	86 19.50	54 12.24	25 5.67

「家族の収入」は古い卒業期ほど（当然のことだが）高い。I期の4割が高所得（1000万円以上）である他若いV・VI期にも高所得の割合が案外多い。（ともに1.5割）のは特徴といえるだろう。新旧世代の業種の違いによるのかもしれない。また、各期を通じて高所得層（「1500万円以上」「1000～1500万円」）の割合が思いのほか多いのは、共働きと少子化に起因するのではなかろうか。

(B) 生涯学習の意識と収入

(表2)

学習の「きっかけ」について、自由時間の増加したとはいえ、若い人や共働きには自由時間がない傾向である。また、高所得層の「1000～

1500万円」「1500万円以上」の人が楽しみや趣味のために学習の「きっかけ」が大いにあったようである。これは生活に余裕ができたといえる。

美術館・博物館などの芸術的催し物によくでかけるのは「未婚就労継続型」「家庭・就労両立型」。高所得層の「1000～1500万円」「1500万円以上」の4～5割が楽しんでいる。

「200万円～1500万円以上」の比較的、幅広い範囲で健康や体力と関連した活動に意図的に参加している。社会事業の中で「保育・教育に関する活動」に最も力を入れてほしいと4割の人からでている。

卒業から現在まで学習できなかったのは「300万～1500万円」の範囲の人たちが「仕事が忙しい」「育児に追われている」ことを挙げている。

職場研修に参加し学習の機会を多く接しているのは、「未婚就労継続型」「出産退職再就労型」「家庭・就労両立型」。

仕事をもっている人の方が、専業主婦として家庭中心の人より、美術館・博物館などの催し物に積極的に参加している。また仕事をもっている女性たちほど、さらに自ら技術や資格向上のための学習に積極的に参加していることがわかる。女性が生涯学習として意識をもって生活することができるのは、経済的に安定された生活環境や教育環境・親の価値観などから育まれてきたものなど考えられる。

(C) 「家族の収入」と「ライフコース」との関係 (表3)

M短大卒業生の現在(H5年2~3月現在)の有職率は非常に低かった。回答者数421名の中で家庭での年収について記入あった者は、304名(72%)である。

(なお年収に関しては「おさしつかえなければお答え下さい」との但し書きを加えている

回答者の5割以上の家族は、年収700万円を越えている。

7つのライフコースと家族の年収との関係には(表3)、顕著な差があるとは言いがたいが、概ね次のような特徴がみられた。

第1に「未就労家庭型」の大部分は、年収が500万円以上の人である。第2に年収300~1000万円の間の人6割は「結婚退職型」と「出産退職型」である。第3に「出産退職再就労型」の家族の収入はダブルインカムである率が高いことが予想されるが、必ずしも高収入とはいえず、年収200万円~1500万円以上の広い幅の中に分散している。

表2 生産学習の意欲と収入

学 習 の 内 容	合 計	1	2	3	4	5	6	7
		200万 未満	200万 ~300万	300万 ~500万	500万 ~700万	700万 ~1000万	1000万 ~1500万	1500万 以上
*学習を始めた「きっかけ」 の理由(3つ選択)								
・自由時間が増加したから *	N 25	0	0	2	9	12	2	0
% 8.12	0.00	0.00	4.76	10.34	13.95	3.70	0.00	
・楽しみ趣味のため *	N 111	1	3	15	29	22	25	16
% 36.04	20.00	33.33	35.71	33.33	25.58	46.30	64.00	
*短大卒業から現在まで学習で きなかったのは何故(3つ選択)								
・仕事に忙しい *	N 64	0	0	9	18	16	18	3
% 20.78	0.00	0.00	21.43	20.69	18.60	33.33	12.00	
・費用がかかり過ぎる **	N 84	2	7	9	23	14	6	3
% 26.78	40.00	77.48	21.43	26.44	16.28	11.11	12.00	
・育児に追われている *	N 71	1	2	16	26	17	10	2
% 23.05	20.00	22.22	16.67	11.48	2.33	7.41	20.00	
*生産学習を続けていく上で困 害になると思うこと(2つ選択)								
・男性の理解が得られない *	N 81	1	2	7	10	2	4	5
% 10.20	20.00	22.22	16.67	11.48	2.33	7.41	20.00	
*地域でどんな活動に参加して いますか(複数選択)								
<場所について>								
・スポーツ施設に通って **	N 74	1	6	5	21	14	19	8
% 24.03	20.00	66.67	11.90	24.14	16.28	35.19	32.00	
・芸術的催し物によく 行く *	N 80	2	3	6	21	16	20	12
% 25.97	40.00	33.33	14.29	24.14	18.60	37.04	48.00	
・学習していない ***	N 84	1	2	19	21	31	10	0
% 27.27	20.00	22.22	45.24	24.14	36.05	18.52	0.00	
<内容について>								
・社会福祉や福祉活動、 ボランティア活動 *	N 21	0	0	2	5	2	8	4
% 6.82	0.00	0.00	4.76	5.75	2.33	14.81	16.00	
・健康や体力に関連した 活動 *	N 74	1	4	5	22	15	16	11
% 24.03	20.00	44.44	11.90	25.29	17.44	28.03	44.00	
・学習していない	N 85	1	2	20	20	20	12	1
% 27.60	20.00	22.22	47.62	22.98	33.72	22.22	4.00	
*ボランティア活動をしていな いと答えた理由(2つ選択)								
・興味がない *	N 34	0	3	8	7	4	6	6
% 11.04	0.00	33.33	18.05	8.05	4.05	11.11	24.00	
*この1年の間に職場でどのよ うな方法で学習したが(複数選択)								
・運動部関係のクラブ 活動 *	N 14	0	2	0	3	3	6	0
% 4.55	0.00	22.22	0.00	3.45	3.49	11.11	0.00	
・その他 *	N 12	0	3	4	1	1	2	1
% 3.90	0.00	33.33	9.52	1.15	1.16	3.70	4.00	
・就業していない *	N 103	1	1	17	39	29	12	4
% 33.44	20.00	11.11	40.48	44.83	33.72	22.22	16.00	
*社会事業の中で最も力をいれ て欲しいと思う内容(3つ選択)								
・労働や法律・人生の問題 についての相談 *	N 21	0	0	2	11	2	6	0
% 6.82	0.00	0.00	4.76	12.64	2.33	11.11	0.00	
・保育・教育に関する活動 *	N 127	1	3	22	46	33	19	3
% 41.23	20.00	33.33	52.38	52.87	38.37	35.19	12.00	

(注) 検定 \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

### 3 まとめ

- (1) 生涯学習のための阻害要因として
  - ・ 仕事が忙しい
  - ・ 育児に追われている
  - ・ 費用がかかり過ぎる
  - ・ 男性の理解が得られない
- (2) 各期を通じて高所得層（「1000万円～1500万円」「1500万円以上」）の割合が多いのは、共働きと少子化に起因するのではなからうか。
- (3) 約6割の卒業生は「就労していない型」であり、家庭中心の生活を営んでいる。
- (4) 日本における女性の典型的な就労スタイルといわれている「就労・中断・再就労」の、いわゆるM字型就労をとっている「出産退職再就労型」16%、「結婚退職再就労型」1.2%ときわめて少ない。
- (5) 「未就労継続型」8%、「家庭・就労両立型」7%。学校卒業してから現在まで働き続けている有職率は15%と非常に低い。
- (6) 回答者の5割以上の家族は年収700万円を越えている。
- (7) ボランティア活動を「したことがない」が圧倒的に多い。
- (8) 「本人の1ヵ月のこずかい」の全体の平均は年収から比較すると僅かである。

「1～3万円」 23%  
 「5～10万円」 15%  
 「3～5万円」 15%  
 なし 14%  
 「5～1万円」 8%  
 「10～20万円」 4%

無回答

表3 「家族の収入」と「ライフコース」について

ライフコース	家族の収入	合計	1	2	3	4	5	6	7
			200万未満	200万～300万	300万～500万	500万～700万	700万～1000万	1000万～1500万	1500万以上
1 卒業→就職		N 20 % 6.58	2 40.00	1 1.11	3 7.50	5 5.75	3 3.57	3 5.56	3 2.00
2 卒業→就職→(解約)退職→結婚→専業主婦		N 108 % 35.50	0	3 33.33	9 22.50	35 40.23	38 45.24	14 25.83	9 36.00
3 卒業→就職→結婚(共働き)→出産退職		N 60 % 20.00	1 20.00	0	16 40.00	20 22.99	15 17.86	8 14.81	2 8.00
4 卒業→就職→結婚(共働き)→出産退職→再就職		N 45 % 14.90	0	2 22.22	9 22.50	12 13.79	9 10.71	11 20.37	2 8.00
5 卒業→就職→結婚(共働き)→出産後も共働き		N 23 % 7.60	0	2 22.22	0	3 3.45	10 11.90	6 11.11	2 8.00
6 卒業→家事手伝い→結婚→専業主婦		N 13 % 4.20	1 20.00	0	0	4 4.60	2 2.38	5 9.26	1 4.00
7 その他		N 33 % 10.90	1 20.00	1 11.11	3 7.50	8 9.20	7 8.33	7 12.96	6 24.00
合計		N 304 %100.00	5 1.64	9 2.96	40 13.16	87 28.61	84 27.63	54 17.76	25 8.22